

Chicken Pox Party - To Go or Not To Go ?

Chicken Pox Partyは、お子様のいるご家庭ではイギリスに来て驚いた習慣としてお馴染みかもしれませんが、初めて聞けば何だかちょっと楽しそうな響きで、知らずに誘われたらつい行ってしまいそうですね。

Chicken Pox Partyは“大きくなってから水疱瘡（Chicken Pox）に罹ると大変だから、早めに水疱瘡に罹った子にうつしてもらおう！”というのですが、実際に診療所でも親御さんが“水疱瘡はワクチンを打つよりも、ああいうパーティーに行って実際に罹ったほうがいいのでしょうか？”といった質問をされるのが意外によくあります。結論としては“もし本当に罹った方が良いのであれば、そのワクチンは世の中に存在しないですよ”ということになるのですが・・・ それとも水痘ワクチンは誰からもうつしてもらえない不運な子のためにあるのでしょうか？

◆ 水痘(水疱瘡)の基礎知識

病名：和名 水痘（水疱瘡）、英名 Varicella (Chicken Pox)

病原体：水痘帯状疱疹ウイルス (Varicella-Zoster Virus)、しばしば VZVと略記します。ヘルペスウイルス属の一種です。

症状：初感染ではおよそ10-14日程度の潜伏期の後、水痘として発症します。頭皮を含む全身の皮膚に特徴的な水疱疹が出現し、まれに脳炎、肺炎などを併発し重症化、最悪の場合には死亡する可能性もあります。回復後の免疫は生涯持続し水痘を発症することはありませんが、ウイルスは生涯体内（神経節）に潜んでおり、再活性化した場合は帯状疱疹（Shingles）を発症します。水痘に未罹患で帯状疱疹の患者よりウイルスに感染した場合は水痘として発症します。

危険性：水痘患者10万人あたりの死亡数は、0歳の乳児で7人、1-19歳の小児では1-1.5人ですが、成人では約25人と多くなりますので、乳児を除く小児には軽症、思春期～成人で重症とい

うのは事実です。そのほか新生児の感染は高い確率で致命的（死亡率20-30%）になりますが、自然感染歴もしくはワクチン歴のある母親から出生する児は胎盤経路で移行した抗体（免疫グロブリン）を持っているため感染そのものが稀です。

治療：水痘は対症療法のみで自然治癒を期待できるため、水痘患者すべてに対する抗ウイルス

薬（アシクロビル）の投与は推奨されておらず、英米ではハイリスク症例に限り選択的に抗ウイルス薬を投与します。一方、日本では抗ウイルス薬を投与することが近年やや過剰に一般化しておりますが、確かに早期に投与すれば多少症状が軽減することが期待できます。アシクロビルは水痘のほか、帯状疱疹、単純ヘルペスウイルスにも有効です。

◆ 予防接種

日本で開発された、岡株(Oka Strain)を継代培養し弱毒化した生ワクチンが世界的に使用され水痘感染予防に寄与しています。日本では1988年、イギリスでは1989年、アメリカでは1995年に認可を受け、その後、重大な合併症もほぼ見られず安全なワクチンとして広く流通しています。アメリカは導入こそ遅かったものの定期接種化したことにより接種が急速に普及したため、水痘患者が減少し合併症で死亡する患者も激減しています。



安藤 達也 先生

日本小児科学会専門医
日本小児循環器学会専門医
自らも7歳と4歳の2男児の父であり
心臓疾患などの高度医療経験が豊富で
日英医療事情の違いにも精通しており
とても頼りになる小児専門医である

A Dose of Prevention

The number of deaths with varicella, or chicken pox, as the underlying cause has steadily fallen for all age groups since the chicken-pox vaccine gained widespread use in 1996.



図：米国人口100万人あたりの水痘による死亡人数（The Wall Street Journalより転載）。1995年にワクチンが承認され1996年から普及した結果、急速に死亡者が減少した。

（次ページへつづく）

一方、日本や英国では、いまだ任意接種のため接種率が低く流行を阻止できていないことが指摘されており、昨年日本小児科学会では水痘感染に伴う入院や死亡を回避するために、水痘ワクチンを定期接種化することを厚生労働省に提言しています。さらにワクチンの効果をより確実なものにするために、2回接種を標準としている国が多い中、1回接種が基本であった日本も、遅ればせながら2回接種を推奨するようになっています。

いずれにしてもワクチンが100%有効ということはありませんが、米国では2回接種により95%以上の有効性で自然感染を予防できるとの報告もあり、今後は日本でも水痘ワクチンの2回接種が一般的になることでしょう。ただしワクチン接種前であっても一回接種後であっても、実際に水痘に罹患してしまった場合には、その後のワクチンは不要になります。

◆ Chicken Pox Party

近年でもソーシャルメディアを介して参加を募ることの危険性が指摘され、パーティーのみならず水痘患者の舐めたLollipopを郵送・販売するという、とても正気とは思えないことが実際にアメリカで問題となるなど、実際に水痘に罹患することをよしとする考えは、イギリスに残った過去の風習というだけではないようです。

現在Chicken Pox Partyを支持する専門家はいませんが、ワクチンの無い時代においては、小児期に罹って軽く済ませることは有効な方法でした。ただ現在のように安全で有効なワクチンが存在しながら、いまだに水痘に罹患することをよしとする習慣が根強く残る背景にはいくつかの誤解があるようです。

まず最大の誤解は“予防接種を受けても効果が長続きしないので小さいうちにかかっておいたほうがよい”というものです。水痘ワクチンの効果は、ワクチン導入後の日本や米国の報告で15年から20年は十分な値を示していることがわかっています。さらに長期的なデータはワクチンのまだ浅い歴史から不明では

ありますが、麻疹ワクチンなど他の生ワクチンの経験から類推すると、その先も水痘が疾患としてある程度発生しているようであれば、実際のウイルスに接触することにより免疫力が増強されるブースター効果が起こり十分な免疫が維持されると考えられます。逆に水痘ワクチンの接種率が高まり水痘の流行そのものが抑制された場合は集団免疫（流行が無くなれば感染するリスクが著しく低下する）という効果で、もし免疫力が30年-40年という経過で低下してきた個人が出てきたとしても感染を免れることができる可能性が高くなります。したがって効果が長続きしないという理由でワクチンを避ける根拠は無いのです。

また“水痘ワクチンでは带状疱疹を予防できないので野生株水痘ウイルスにかかってしっかり免疫をつけたほうがよい”という誤解もあるようです。確かに前半の水痘ワクチンで带状疱疹の発症を予防することは出来ないという部分は正しいのですが、水痘ワクチン接種後のほうが野性株ウイルス罹患後よりも带状疱疹の発症率が高いという報告は無く、带状疱疹の発症は同程度もしくはむしろ低いと考えられています。つまり水痘ワクチンは带状疱疹を防げないものの带状疱疹の発症が多いとしてワクチン接種を避ける理由は無いのです。

◆ まとめ

- ・ 水痘には、少ないながらも重篤な合併症や死亡するリスクがある。
- ・ 水痘の発症はワクチンの二回接種でほぼ予防できるし効果も持続する。ワクチンの安全性も確立している。
- ・ Chicken Pox Partyはワクチン登場前には意義があったが、ワクチンより優れる点は何も無い。

したがって、これからは確信をもってワクチンを接種していただき、自信をもってChicken Pox Partyはお断りください。もちろん間違っても主催などはなさないでください。



！ おしらせ

☆ 小田木医師が北診療所で行う「内視鏡検査」の曜日が増えました。通常は水曜日に実施していますが、小田木医師が北診療所で診察する日は他の曜日にも検査できる場合がありますので、北診療所までお問合せください。

☆ 北診療所・南診療所では「トラベルワクチン接種」を行っています。詳しくは、診療所ホームページの「診療内容」をご参照ください。